

## 北大スラブ研究所「共同利用」に参加して

北大スラブ研といえば、東京に住む者には、その豊富な資料の所在と美しい自然で、憧れの学び舎です。そこに「共同利用」という制度があると知って、即座に応募したところ、すぐさま合格通知をいただいたのには、おおげさではなく夢を見ているような心地でした。というのは、私は教師暦が長く、しかもロシア語習得に時間が掛かったためもあって、大学院を経ることができませんでしたので、いつも我流で… という孤独感をもっていましたので。

数年前に一度、スラブ研図書館でロシアの地理と歴史の教科書を見せていただいたことがありますが、今回は研究の目的も明確になっていました。『Чертежная книга Сибири С.У.Ремезова』(レーメゾフのシベリア地図帳) (2003年モスクワ複製版) の第2巻にあるポスニコフの論文『Картографирование Сибири в 17-начале18века. Семен Ульянович Ремезов и его рукописные атласы.』(17世紀-18世紀はじめのシベリアの地図制作— セミョーン・ウリヤーノヴィチ・レーメゾフとその手書きの地図帳) の翻訳を完成させたい、という目的です。まだ先方との連絡が取れず、実現していませんが、できることなら学会誌『歴史地理学』に投稿したいと考えております。

地下4階の書庫に埋没して過ごした日々はこの上ない幸せな思い出でもあります。このような機会を与えてくださった関係者の方々に心より感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

2010年4月26日

佐々木路子